

わしっ子 もぐもぐ通信

令和8年1月号
鷺塚小学校
食育だより



感謝して食べよう！

給食が児童のみなさんのもとに届くまでには、たくさんの人が関わっています。下の図で表してみました。いちばん最後は、給食当番さんの出番ですね。給食を盛りつけて、クラスのものもとへ届けてくれています。

いつも、「給食、おいしいです!」「ごちそうさまでした!」と声をかけてくれる子がたくさんいて、給食の先生はとてもうれしい気持ちになります。これからも、給食を届けてくれる人たちに感謝の気持ちをもって食べられるとすてきですね。



栄養教諭
給食の献立を考える



食品業者さん
給食の材料を
給食センターまで運ぶ



農家さんや畜産家さん
給食に使う食べ物を作る

給食づくりに関わる人たち



給食当番さん
みんなの給食を盛りつける



トラック運転手さん
作った給食を学校まで運ぶ



調理員さん
心をこめて給食を作る



1/24～1/30は
「全国学校給食週間」です

日本の学校給食のあゆみ

学校給食の始まり



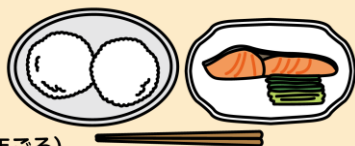
明治22（1889）年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちへ食事を出したのが、学校給食の始まりとされています。大正12（1923）年には、子どもたちの健康を守るために、学校給食が各地へ広がりましたが、その後の戦争によって食べ物が足りなくなり、中止になってしまいました。

おにぎり

焼き魚

漬物

（明治22年ごろ）



五色ごはん

栄養みそ汁

（大正12年ごろ）



支援物資による学校給食の再開

戦後、子どもたちの健康を心配する声が高まり、昭和21（1946）年12月24日にLARAという団体から食べ物を受け取り、次の月から学校給食が再スタートしました。始めは12月24日を「学校給食感謝の日」としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。

ミルク

トマトシチュー

（昭和22年ごろ）



コッペパン・ミルク

クジラの竜田揚げ

せん切りキャベツ

（昭和25～30年ごろ）



バラエティー豊かな献立内容に

最初、給食の主食はパンが中心でしたが、昭和51年にご飯が出るようになると、カレーライスや炊き込みご飯などが登場し、献立の幅が広がっていきました。このように、学校給食の内容は時代とともに変わってきましたが、いつの時代も変わらずに、「子どもたちがおいしく食べて、健やかに成長できるように」という願いが込められています。また、学校給食は、大人になっても健康な食生活を送るための「教材」でもあります。



碧南市の学校給食週間は、23日（金）～29日（木）です。碧南市産や愛知県産の食べ物、愛知県の郷土料理などがたくさん登場します！
くわしくは今月の献立表に載っているので、読んでみてくださいね。